

●まち育ての専門家派遣事業

岡崎市近郊での講義・ワークショップ実施や岡崎市内の先進事例の紹介、各種委員会や審議会への助言ならびに政策提言を担いました。市内で実践した各事業の成果が県内の各地域などからの評価につながり、様々な派遣依頼につながりました。複数メンバーで実施する単発ワークショップ運営等の事業受託が増加し、それぞれの主催者・参加者のニーズに合わせた課題解決の場づくりや支援を行うことができました。

【派遣先】全10事業

- ・ハウジングアンドコミュニティ財団 地域交流会in岡崎 開催支援業務
- ・岡崎市総代会連絡協議会 総代会会長会研修
- ・未来へつむぐ岡崎の水と森の座談会開催補助事業 他

【委員会での助言】全17事業

- ・岡崎市都市計画マスタープラン策定委員会
- ・岡崎市景観審議会
- ・乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン会議 他

●岡崎ファシリテーション研究会

ファシリテーションは、会議を円滑に進めるだけでなく、窓口でのコミュニケーションや場づくりなど、さまざまな場面で活用できる技術です。リタスタッフ自身のスキル向上はもちろん、市民活動や地域活動、まちづくりに関わる皆さんにもその考え方や手法を広げることで、岡崎のまち育てをより前に進めるとともに、活動する人同士のつながりを育むことを目指しています。

こうした目的のもと、「まちとしごと総合研究所」の東氏と協働し、本研究会を立ち上げました。2026年1月には、東氏が実践している多様な場面でのファシリテーション手法を学び、参加者同士で高め合うプログラムを実施しました。2026年度も引き続き、学びと実践の機会を重ねていく予定です。



西梅園茶話会



地域交流会in岡崎



なごみん横丁(北)



ゆきファミリーパーク(悠)



活動支援メニュー広報(市活)



防災さんぽ(南)



夏の宿題ヒントフェス(西)



市民活動博覧会(東)

りた会員募集のお知らせ

りたは、市民が中心となり、専門家や行政とも協働してまちをつくる社会を目指すNPOです。本法人の趣旨にご賛同いただける団体・個人の方々の入会をお待ちしております。

<正会員> 団体正会員 一口 年額10,000円 個人正会員 一口年額 3,000円

▲総会での議決権を持ち、NPO運営活動に直接的にご参加いただけます。

<賛助会員> 団体賛助会員 一口 年額10,000円 個人賛助会員 一口年額 3,000円

▲りたの活動に賛同し、支援するための会員です。総会での議決権はありません。

・入会いただいた方には、郵送にて本誌(年6回)を送らせていただくほか、法人運営に関わる会合(総会等)のご案内をお送りします。

・年会費は、申し込み時期に関わらず、毎年3月31日(本法人の事業年度末)をもって更新となります。

特集

2025年度のりた

りたは、市民や市民団体、企業による社会貢献活動を促進し、市民・企業・行政が相互に参加・協力する協働型社会づくりを推進することを目的としています。その実現に向け、地域自治や多様な市民活動の支援を通じて連携・協働を進めるとともに、「新しい公共」の理念の浸透と持続可能な社会につながるまち育てに取り組んでいます。

2025年度は、地域交流センターやりぶら市民活動セン

ターの運営をはじめ、地域課題の解決に向けた計画づくりのサポートや空き家の解消および活用の仕組みづくり、公民連携による公共空間の活用促進等に取り組みました。

また、これまで培ってきた市民協働のノウハウを活かし、県内各地域におけるまちづくりや地域課題解決を支援する専門家派遣事業を実施しました。

今号では、多岐にわたるりたの事業内容・成果活動を抜粋し、報告いたします。

数字で見る「りた」2025

決算額(経常収益)

2億1,600万円

(前年比約300万円増)

会費・寄付金・助成金などで約200万円、まち育て推進・市民活動支援などの事業収益で、約2億1,300万円、その他収益で約100万円となっています。

従業員数

62人

(2026年3月末時点)

常勤職員17人、パート・アルバイト職員45人で、まち育て・交流センター・市民活動センターの運営をしています。

交流センター年間利用者数

約48万人

(前年比約3万人増)

なごみん約85,000人、よりなん約107,000人、やはざかん約99,500人、むらさきかん約93,500人、悠紀の里約95,000人の利用者がいました。

ボランティア役務提供額(1,140円/h換算)

520万円

「りた」の事業に関わっていただいたボランティアの延べ活動時間数を賃金換算して可視化しました。
延べ参加人数6,444名(前年比約800人増)
延べ参加時間4,606時間(前年比約550時間減)

アウトリーチ

148件

(目標値120件)

地域内の事業者や学校、NPOなどに対し、ニーズ調査や交流センターの活用促進をPR、事業における協力体制の構築に向けたヒアリングなどを実施しました。

りたの「3つの主要テーマ」に対する成果

Ⅲ 地域活力を高める

地域交流センターの管理運営を通じて、市民活動団体による公益活動の場づくり、子どもや学生の社会参加の場づくり、市民活動や地域活動へのボランティアマッチングを推進しました。蓄積されたネットワークを活かし、課題解決や資源を活用する担い手を掘り起こし、市民協働型社会の実現に向けた活動を行いました。また、学習および交流の機会提供、総代会連絡協議会や行政職員向けの協働研修、「市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会(JVCC)」を始めとした自治体諮問機関(委員会等)や各種勉強会等への専門家派遣等を通じて、協働型社会について啓発すると共に、社会関係資本の醸成に寄与しました。

【該当事業】

地域交流センター指定管理、まちびとバンク、協働研修ほか

Ⅲ 地域資源を活かす

公共空間、準公共空間、その場所を活用する市民、団体、事業者を資源としてとらえ、より豊かな使われ方を見出し、それを価値として意味付け、具現化、持続化させるための活動と結びつけ、地域の魅力向上に貢献しました。また、路地街区再生プロジェクト(西梅園地区)では、狭あい道路に面した空き家を活用することで、「課題」を「資源」に変換して、高齢者の生活支援や防災など複合的な地域課題解決に結びつけました。

【該当事業】

路地街区再生プロジェクト(西梅園地区)、公園愛護運営会設立等支援業務、「三郷駅前周辺まちづくりデザイン意思決定支援業務」に関するコンサルティングほか

Ⅲ 地域課題を解決する

少子高齢化、空き家の増加、防災、子育て支援など、山積する地域課題に対して、地域包括支援センター、岡崎市社会福祉協議会、学区福祉委員会など既存の担い手との連携や、社会貢献意欲のある個人や団体、ボランティアなどの担い手の発掘およびマッチングを通じて、地域の課題解決を支援しました。

【該当事業】

恵田学区地区別計画策定支援業務、地域包括ケアシステム支援事業、路地街区再生プロジェクト(西梅園地区)、中山間地関係人口創出プロジェクト(下山学区)、市民活動支援ほか

●中山間地関係人口創出プロジェクト(下山学区)

下山学区の持続可能な地域づくりに向けて、①しもやまYAMABIKO倶楽部(岡崎市下山学区地域づくり協議会から改組)の運営支援、②オクオカ活性化拠点下山(YAMABIKO、旧JA下山支店)活用検討支援を行いました。

しもやまYAMABIKO倶楽部の運営支援を通じて、体験農園「となりの田んぼ」の実施(ONERIVERが企画・実施を支援)、YAMABIKO青空市・喫茶YAMABIKO、YAMABIKO食堂の実施、地域支え合い車両YAMABIKO号の運行、YAMABIKO通信の発行などの活動の成果と課題を整理し、運営方法の見直し・改善を行い、各活動の自立的な体制は整ってきています。現在、市がJAから賃借しているYAMABIKOの自立的な活用含め、農村型RMOとしての自立的な運営体制の確立が目下の課題となっています。

●恵田学区地区別計画策定支援業務

恵田学区は、岡崎市北部に位置する中山間地域の一つであり、近年、人口減少・少子高齢化・公共交通の不在・遊休農地の増加など、多くの地域課題が顕在化しています。こうした地域課題に地域が主体となって協働で持続可能な地域づくりを進めるために、岡崎市中山間地域活性化計画(オクオカイノベーションプラン)に基づき「地区別計画」の策定を支援しました。同計画策定にあたり、住民アンケート調査、ワークショップの実施、かわら版の発行を行いました。

●安城地区公園再整備基本構想策定ワークショップ

安城市では、市内にある4つの地区公園(秋葉公園、柿田公園、堀内公園、川島河川敷公園)のリニューアルに向けた構想策定が進められています。この構想策定に向けて、専門家による委員会や市民アンケートなど様々な検討プロセスがあり、その一つが「市民ワークショップ」です。この構想策定業務全体を株式会社ブレック研究所が受託し、市民ワークショップの部分を、りたが担当しました。2025年度までの2か年にわたり、全4回のワークショップを開催し、構想策定に向けて、市民意見を反映しました。

●「三郷駅前周辺まちづくりデザイン意思決定支援業務」に関するコンサルティング

尾張旭市は三郷駅前開発事業の推進に際し、愛知県立芸術大学とまちづくりに関する協定を締結しました。これを受け、愛知県立芸術大学は、「三郷駅前周辺まちづくりデザイン意思決定支援業務(以下本事業)」を受託し、地権者を含む三郷駅周辺市民らの駅前開発事業区域およびそれを核とした近隣のまちづくり推進に貢献しようとしています。これらを踏まえ、再開発基本計画への市民意見の反映と、駅周辺のエリアマネジメントの機運醸成や体制づくりを念頭に、各種のワークショップ、社会実験、フォーラムを開催しました。

●愛・地球博記念公園マネジメント会議運営補助業務

愛・地球博記念公園マネジメント会議(NPO、企業、大学、行政など総勢70程度の会員が参加)の会議ファシリテーション支援を行ないました。

前年度にまとめた活動方針に基づき、①パークマネジメント活動QA整理、②サトラボ周辺エリア活動(ジブリパークとの共生)、③西口エントランス活用活性化を実施しました。



まち育て推進チーム

2025年度の事業(抜粋)

●地域包括ケアシステム支援業務

多様な担い手による高齢者の日常生活上の支援体制の充実・強化、及び社会参加の推進を一体的に図り、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができる地域包括ケアシステムの構築、さらには地域共生社会の実現に向けて、市内20の地域包括支援センターの支援(包括職員研修、アイデアソンの企画・運営、広報支援等)を行いました。

第10回岡崎アイデアソンでは、民間事業者・福祉職・行政職員など80名を超える参加者があり、複合的な福祉の課題を解決するアイデアを考える機会となりました。

●路地街区再生プロジェクト

接道しておらず再建築ができないため空き家の増加と後継世代の流出が進む西梅園地区で、地域活力の向上と路地街区の再生に向けて、町内会や民間事業者・市民団体等と連携し、地域住民及び地権者を対象として、地域交流を促す茶話会(月1回)の開催、菜園の整備・運営、および空き家の片付け支援、内覧会を実施しました(3回)。

まちづくり推進課QURUWA係が実施する「事業リノベーションスクール」への参加を通じて、拠点施設キノエノ* farm houseの整備・運営に関して専門家からのアドバイスや、同スクール参加事業者(スノーピークビジネスソリューションズ、山田農園)の協力を得ることができました。また、西梅園町内会、中央地域福祉センター、中央包括支援センター、岡崎市ふくし相談課の協力により、月1回の茶話会を通じて地域住民との関係性構築が円滑に進み、不動産情報が寄せられるようになってきました。

実際に空き家所有者の相談から、空き家の片づけと利用希望者の内覧会を実施し、地域のための活用に向けた動きも生まれました。

さらには、岡崎市住環境整備課と連携し、無接道・狭あい道路に面した不動産の活用方法について具体的課題と解決策について検討することができました。

●公園愛護運営会設立支援等業務

既存の公園愛護運営会の運営上の課題やノウハウについて意見交換・交流を図る「情報交換会」および矢作公園の愛護運営会設立に向けた地元調整、既存の「公園愛護運営会」の活動状況を把握するアウトリーチを行いました。

公園愛護運営会の情報交換会からSNS グループ(LINE オープンチャット)を立ち上げ、愛護運営会同士で年に1回の情報交換会だけでなく、日常的に組織運営や企画のノウハウを尋ねたり、イベント等の情報共有をするための環境を構築できました。

新規設立の相談や既存団体からの相談が特になかったため、公園愛護運営会の実態を把握すべく、自主的に3団体の活動の現場にアウトリーチを行い、組織体制や役割分担、他団体との連携状況、運営上の工夫や成果等を整理・分析しました。



北部地域交流センター・なごみん



2025年度の事業(抜粋)



●市民活動サポート研修 「ひとりじゃない社会をつくる支援のヒント」講座

参加者(受講者)22人(22団体) 講師1人他
ひきこもり、障がい、子育て、介護などのテーマで活動する団体を中心に、講義とグループワークを行いました。課題の共有や地域での孤立を防ぐ協働の方法を学び合うことで、団体運営と地域づくり双方に役立つ視点を獲得する場を提供できました。

●『地域資源再発見!』まちづくり講座

参加者35人(18団体) 出展者10人(20団体)他
地域の魅力と課題を共有することを目的に、まちの魅力を出し合うワークショップを開催しました。様々な視点から地域資源や課題をマップに落とし込みました。多様な主体が交流しながら地域情報を共有することで、地域資源の再発見と可視化が進み、今後の地域づくりへつながる基盤が形成されました。

●なごみん横丁(第17回)

参加者731人 ボランティア177人
労働や出店、納税に加え、議会やアクシデント対応を通じて、まちの仕組みを学ぶ機会を提供しました。参加した子どもたちが主体的に関わり、他者と協働しながら活動する場となりました。当事業を卒業した中学生がボランティアで支える側として引き続き参加してくれるケースも増えてきました。ボランティア、市民団体、企業と連携して運営を行いました。

●聾学校×地域 協働創出事業

来場者46人(3団体) ボランティア16人他
市民活動団体「ピランチャヨガ」及び岡崎聾学校と協働し、ヨガ体験と共に手話や筆談を用いた多様な交流の場を提供しました。参加希望者が多く席を増やすほどの反響があり、聾学校生との真剣な対話が印象的でした。岡崎東高校JRC部も加わり、世代や背景を超えた交流の機会となりました。

南部地域交流センター・よりなん



2025年度の事業(抜粋)



●市民活動サポート研修「情報ひろば活用講座」

参加者(受講者)17人(10団体) 講師2人 ボランティア1人他
「おかざき市民活動情報ひろば」サイトを活用し、団体活動の周知拡大と活性化を目的とした講座を実施しました。事前に個別サポートや資料収集を行い、当日は活用団体の事例発表とともに、ログイン方法や写真投稿手順を解説し、理解促進と活用意欲の向上を図りました。

●みんなとつながるコラボフェス

来場者79人 出展団体46人(17団体) ボランティア1人
市民活動団体と地縁団体・事業者との協働を促進するための交流イベントを開催しました。第1部では、団体が活動内容やつながりたい相手を紹介し、一般参加者との交流を通じて関心を高めました。第2部では、出展団体同士が名刺やチラシなどを交換し、情報共有やマッチングにつながる関係づくりを図りました。

●まちの生きがいがづくり活動「まちカツ!」

参加者38人(28団体)他
地域住民の経験やスキルを地域で活かすことで関係づくりを促進し、助け合いや協力しやすい環境を整えるための「まちカツ!」を開催しました。スタッフによる伴走支援できめ細やかなサポートを行うことで23講座の開催に至りました。センターPRとともに活動意欲の向上や新たな取組につながられました。

●上地学区親子秋祭り連携事業

来場者370人 ボランティア1人他
上地学区9団体とともに、秋祭りを通して学区民に地域交流センターの役割や活動を周知する機会となりました。クイズや工作を通して楽しく伝える場となり、学区9団体との信頼関係構築にもつながる機会となりました。

西部地域交流センター・やはぎかん



2025年度の事業(抜粋)



●市民活動サポート研修「団体広報のために写真や動画を極めよう①②」

参加者(受講者)19人(14団体) 講師2人 ボランティア4人 ※延べ人数

①初心者向けに、広報に活かす写真撮影をテーマとした研修を、座学と実践を交えて実施しました。広報に有効な写真技術を学び、撮影の基礎的なポイントを習得した上で、協力団体の活動風景を実際に撮影する実践を行いました。②動画活用による発信力を実践的に学ぶ講座を実施しました。協働促進や新たな層への周知が期待され、参加者から追加開催希望の声が寄せられるなど高評価を得ました。



●まちから学ぼう！市民活動×夏の宿題ヒントフェス

来場者100人 出展団体48人(17団体) ボランティア3人他

小中学生と保護者を対象に、夏休みの宿題を応援するイベントを開催しました。多様な主体に協力いただき、それぞれの視点から「宿題のヒント」を提供しました。開催にあたっては、実行委員会形式をとったことで、団体同士の交流・連携の機会も提供でき、市民活動をひろげるきっかけづくりとなりました。



●防災交流会

来場者36人(6団体) 講師7人他

より充実した防災訓練の開催を目的に、矢作4学区による防災訓練、岩津防災キャンプ、他自治体の防災訓練事例を紹介しました。それらの事例を踏まえ、各テーブルで「自学区の訓練に活かすには？」をテーマに意見交換を行うことで、自助・共助の意識を高め、交流と連携を図ることができました。



●花のとう支援事業

来場者690人 出展者19人(3団体) ボランティア11人

「花のとう」紹介ブースでは伝統文化や地域資源を紹介し、防災トイレ体験や市民団体の展示もあわせて実施しました。展示では来館者の関心が高まり、防災啓発や地域課題に関するアンケートも行いました。これをきっかけに、OKフードバンクや他イベントとの連携が進み、地域防災や協働の新たな展開につながりました。

東部地域交流センター・むらさきかん



2025年度の事業(抜粋)



●市民活動サポート研修「受援力のススメ ～受援力をミカタに活動をアップデートしよう！～」

参加者(受講者)18人(8団体) 講師5人他

市民活動の活性化を目的に、ボランティアを受け入れる「受援力」を学ぶ研修を実施しました。活動を通じて、つながりを生み出すための配慮や、自団体における受け入れの工夫点、実践に役立つ具体的なヒントを得る機会となりました。



●防災フェーズフリーってナニ？

来場者29人(21団体) 出演者7人(2団体) 講師4人他

防災課の講義や、防災に取り組む団体による事例紹介、グループワークでの意見交換を通じて、日頃の活動を災害時に活かす視点を共有しました。地域と団体など6件のマッチングが生まれ、団体間連携の具体的な動きも生まれました。アンケートでも高評価を得ており、地域全体の防災力向上に向けた協働の基盤形成につながりました。



●歴史街道を歩いてみよう！「むらさき麦まつり」～市民活動博覧会～

来場者1,441人 出展者38人(21団体) ボランティア8人他

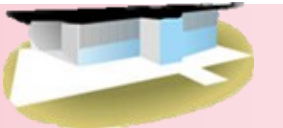
市民活動団体等による体験会を12ブース、作品や活動紹介の展示を15ブース、販売を5ブース設置し、市民活動のPRと啓発を行いました。また、藤川まちづくり協議会主催の「むらさき麦まつり」と同時開催し、連携やサポートを行ったことで双方向の人の回遊が生じ、多様な層に市民活動や地域活動を啓発できました。



●むらさきかんサロン

交流スペースにて、活動団体がピアノコンサートや読み聞かせ、マジックショーなど、30分程度のプログラムを披露する場を設けました。出演者はそれぞれ特技や個性を活かし、来場者に楽しんでもらう工夫を凝らしたプログラムを実施、交流スペースが憩いの場となりました。ピアノコンサートではやさしい音色が響きわたり、来場者のみなさんが静かに聞き入る姿が見られました。

地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里



2025年度の事業(抜粋)



●市民活動サポート研修「IT利活用研修①②」

参加者数(受講者)45人(45団体)他

①「AI編」として、広報の基本を学びたい団体を対象に実施。AIの仕組みや活用のポイントを学び、生成AIを使って団体紹介文や参加募集の文章を実際に作成しました。②デザイン初心者でも簡単に操作できる「Canva」の基本操作や活用事例を学ぶ研修を実施。実践演習によって目を引くチラシができ、団体の情報発信力を高め、認知度向上や参加促進につながりました。



●ゆきファミリーパーク

来場者710人 出展者98人(20団体) ボランティア15人他

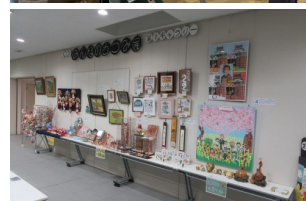
子育て支援団体や大学と協働し、子育て世代向けの体験企画や作品展示、福祉施設による販売ブースを集めたイベントを開催しました。団体間の連携強化を目的に事前交流会や共同制作日を設け、来場者には団体紹介冊子を配布し、活動PRを図りました。



●むつみ地域交流会

来場者42人(12団体) 出展者28人(14団体)他

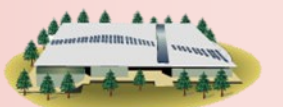
2つの地域包括支援センターと協働し、六ツ美4学区の地域活性化や連携強化を目的に「地域イベントの企画」をテーマにした交流会を開催しました。市民活動団体や企業が活動紹介ブースを設け、マッチングの機会を提供するとともに、学区相互に今後の活動について情報共有することができました。



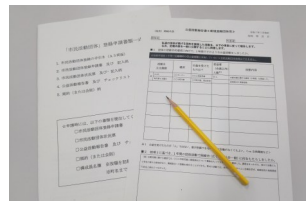
●みんなのむつみ展

ギャラリーにて、六ツ美をテーマにした作品展を開催しました。絵画、写真、陶器などジャンルを問わず、活動団体や市民の作品発表の場となるとともに、来場者にとっては様々な創作活動に触れ、興味をもっていただく機会となりました。今年度は近隣保育園の園児たちの塗り絵も展示され、会場は多くの来場者でにぎわいました。それぞれの『みんなのむつみ』を持ち寄った楽しい作品展となり、六ツ美への愛着を改めて感じられる場となりました。

りぶら市民活動センター



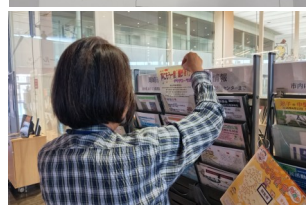
2025年度の事業(抜粋)



●市民活動の支援・推進

窓口相談件数111件／市民活動団体新規登録7団体／情報ひろば入力支援76件

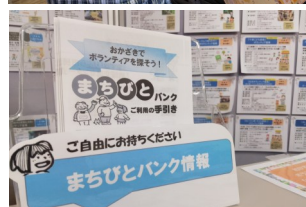
市民活動に関する相談や市民活動団体登録を目指す団体へのアドバイス、申請の受付、既存団体の登録内容変更、団体廃止処理を行いました。また、市民活動活性化のためのサイト「おかざき市民活動情報ひろば」を適宜更新し、問合せ等にも対応しました。



●市民活動に関する情報の収集及び提供 及び 情報発信事業

チラシ等の受付746件／年6回メールマガジン配信(登録団体・者312件)

〈まちのワ！〉発行回数6回 〈東海愛知新聞〉掲載12回 〈市民活動団体PR動画作成〉6団体
市民にとって有益な情報を多様な媒体で発信し、市民活動の広報支援につとめました。



●「まちびととバンク」「まちびととステージ」「もののバンク」事業

マッチングまちびとバンク 577件／まちびととステージ16件／もののバンク60件

ボランティアをしたい市民とボランティアを必要としている団体をマッチングする「まちびととバンク」、自分の経験・特技を活かせる機会を探している人と活躍の場をマッチングする「まちびととステージ」、譲りたいものと欲しいもののマッチングをする「もののバンク」の3事業を実施し、市民活動の活性化に取り組みました。



●公益ナビ巡回展

市内でモデルとなるような活動事例を集めたサイト「公益ナビ」掲載の23事業を6センター巡回でギャラリー展示しました。シールアンケート及びメッセージノートを設置し、市民からの応援の声を募りました。立ち止まって一つ一つ丁寧に閲覧する市民の姿もあり、公益活動に興味をもっていただく機会を提供することができました。